

○学校第○学年 ○○科学習指導案

日 時 令和○年○月○日 (○) ○校時
場 所 ○年○組教室 (○○室)
指導者 ○○ ○○

1 単元(題材、主題)名

- ・教科によって(図画工作科、音楽科、美術科、技術・家庭科、特別活動等)は「題材名」とします。
- ・道徳科は「主題名」とします。

2 単元(題材)について

(1) 単元(題材)観

- ・「学習指導要領」(文部科学省)に示されている「各学年(各分野)の目標及び内容」等を基に、単元(題材)を通じて児童生徒が身に付けるべき資質・能力、学ぶべき内容、指導事項、単元(題材)や教材の系統性や教材の価値等を記述します。

(2) 児童(生徒)観

- ・既習内容や到達度等の実態、本単元(題材)に関する事前調査(アンケートなど)を基に、児童生徒の認知面や情意面等について考察し記述します。
- ・児童生徒の実態を明確にし、児童生徒のよさをどのように伸ばしたいのかを記述します。

(3) 指導観

- ・単元(題材)観、児童(生徒)観を踏まえ、目標を達成するための指導や支援の手立てを具体的に記述します。単元(題材)全体を見通して記述することが大切です。
- ・ここに記したことを、5に示している単元(題材)の指導と評価の計画で具体化します。

3 単元(題材)の目標 ← (4 単元(題材)の評価規準との整合が重要です。)

- ・年間の「指導と評価の計画」に基づき、単元(題材)の目標を明確に設定します。
- ・文末は、「～できる。」「～理解する。」「～しようとする。」のように、児童生徒を主体として記述する場合があります。
- ・単元(題材)全体の目標を一文で簡潔に記述する場合や、資質・能力の柱(「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」)に沿って示す場合があります。

4 単元(題材)の評価規準 ← (3 単元(題材)の目標との整合が重要です。)

- ・各単元(題材)や小単元のねらいに即して、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で単元の評価規準を示します。
- ・文末は、「～している。」「～しようとしている。」のように記述します。
- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』(国立教育政策研究所)に、評価規準例が示されていますので、参考にしましょう。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①	①	①
②	②	②

5 単元(題材)の指導と評価の計画

- ・「学習活動」「学習内容」「評価の観点」「評価の方法」「指導上の留意点」などについて具体的な計画を立てます。作成の際は、単元(題材)観、児童(生徒)観を意識し、児童生徒が単元(題材)の目標を達成できるようにします。
- ・「導入」「展開」「まとめ」又は「問題をつかむ」「調べる」「まとめる・ひろげる」などの段階ごとに児童生徒の主体的な学習活動が展開されるよう、課題解決(問題解決)の過程を具体的に見通して計画します。
- ・評価については、全ての時間で指導に生かす評価と児童生徒への支援を常に行います。
- ・指導に生かす評価については、特に、「努力を要する」状況(C)と判断される児童生徒への支援を重視し、具体的な手立てを考えておきます。
- ・記録に残す評価については、評価の場面を精選した上で適切に位置付け、計画を立てておくことが大切です。1単位時間に位置付ける記録に残す評価の観点は、実際に評価可能な数(基本は1つの観点)とし、全ての児童生徒についての評価を記録に残します。

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	評価規準 と 【評価方法】
1	◆ ○ ・	思①・・・・・・・・・・
2	◆ ○ ・	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆ねらい … ねらいと評価規準を整合させます。</p> <p>○学習内容 … ねらいを達成するために学習する内容を書きます。 (～理解する。～を考える。)</p> <p>・学習活動 … 学習内容に沿った具体的な活動を書きます。 (～話し合う。～ワークシートに書く。)</p> </div>
3	◆ ○ ・	

6 本時の目標

- ・基本的には5の◆ねらいと同じになります。児童生徒の立場で記述する場合があります。

7 本時の展開 (○/○)

	学習活動	指導上の留意点	評価規準【評価方法】等
導入	1	・	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ・5に位置付けた評価規準と評価方法を、本時の展開における評価場面に記します。 </div>
	2	児童生徒に提示する学習目標等	
展開	3	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ・それぞれの学習活動の場面において押さえておくべきことや、児童生徒に行う支援について記述します。 </div>	
	4		
	5		
終末	6	・	
	7	・	

8 本時の評価規準と判定基準(判断の目安)

- ・本時に位置付けた評価規準の判定基準(判断の目安)を設定します。
- ・四角枠で評価規準と判定基準(判断の目安)を示す場合もあります。

本時の評価規準【評価方法】	判断のポイントと指導の手立て
○ 【 】	「おおむね満足できる」状況(B)と判断するポイント 「十分満足できる」状況(A)の例 「努力を要する」状況(C)と判断されそうな児童生徒への指導の手立て等